

「いちごのショートケーキ」

母が倒れ病院で手術中である。高校生の子どもアオイは、慌てて学校から病院にやってきた。手術室の前のベンチに腰掛けている父を見つけ、駆け寄る。

子 父さん！

父 (急に気がついて)あっ！

子 「あ」じゃないよ！母さんは？

父 (うまく言えないし、小声で)しじゅつちゅ・・・

子 えっ？！

父 (声はさっきより大きいけどやっぱりうまく言えない)しじゅつつう

子 手術中？！大丈夫なの？

父 わからない

子 どんな感じなの？死んじゃうの？

父 死んじゃう！？・・・そんなこというなよ。

子 何があったの？

父 ・・・・あんまり良くないらしい。

子 いったい何があったの？

父 ・・・・よく知らない

子 なんで？

父 病院から店に電話があって

子 電話？

父 とにかく来るように言われて

子 どういうこと？

父 ……出かけた先で倒れたらしい。

子 でかけたってどこに？

父 わからない

子 自宅兼店舗なんだし、母さんがでかけたのに気が付かなかったの？

父 今日は午後、飴細工してたから集中してた。

子 飴細工？

父 特注で、ウェディングケーキみたいに段がある超豪華版のケーキのてっぺんにつける鳳凰の飴細工の注文があつて。(だんだん楽しくなって饒舌に)  
あれは時間かかるし集中力があるんだ。あれはね！コツがあるんだよ。  
まず温度は、

子 (かぶせるように)誰も飴細工のことなんて聞いてない！母さんのことだよ！

父 ……わからない。

子 手術の前に説明とかあったんじゃないの？

父 ……いや。

子 いや。じゃなくてさ。

父 ……たしかあったと思う。よく覚えてない。

子 なんでそういい加減なんだよ！

父 . . .

子 (呆れた感じで)そうやっていい加減だから母さんが倒れるんだよ！

父 それとこれとは関係ないだろ。

子 関係あるよ！母さんがどんなに苦勞してるか、わかってないんだよ！

父 . . .

子 もういい。(どこかへ歩き始める)

父 待ってくれ。

子 何？

父 いや。その。

子 説明、覚えてないでしょ？

父 その、. . .

子 聞いてくるから。(一旦はける)

父 . . . (何か言いたげに見送る)

父 (完全にはけるのを見送ったあと、ひと呼吸おいて、またやってしまったという  
感じの大きくため息。座ってまたうなだれる。)

子 (十分にうなだれているのを確認してから戻ってくる。親をみて、  
一瞬考えるけど、座る)

子 . . .あと1時間はかからないって

父 . . .そうか。

子 そうかって、母さんのこと心配じゃないの？

父 心配だよ。心配だけど・・・

子 だけど、何？

父 ……アオイが生まれたとき、母さんに言われて父さんはこんな感じで待ってて

子 えっ？どういうこと？

父 上手く言えなくて・・・

子 なんで生まれたときの話になるの？

父 ……なんか、こう、待つしかないってこと

子 そうですか。(呆れた感じで)

父 (おもむろに立ち上がる)

子 何？

父 トイレ

子 緊張感ないな。

父 緊張してるから。

子 ああ、そう。早く行けば。(トイレの方を指差す)あっちにあったよ、トイレ。

父 うん。(一旦はける)

子 (はけたのを確認して、ため息をついてから)ホント最悪。

子 だいたい父さんは、家族のことなんかなんとも思っていないんだよな。

子 いっつも店でだすケーキやお菓子のことしか考えてなくて、母さんが手術中で死にかけてるのに、のんきに、何が「トイレ」だよ。

(ふんずり帰った感じで腕を組む)

父 (何がトイレだよを聞いてから、ひと呼吸開けて入ってくる)・・・行ってきた。

子 そう。

父 (突然いう)橋本先生は、いつもいちごのショートケーキだからな。

子 えっ？

父 いつも、うちの店で買ってくれるんだ、いちごのショートケーキ。

子 (困惑して)えっ？何の話？

父 医局っていうのかな？人数分買ってくれるんだよ。

子 どういうこと？

父 (またやっちゃったという感じで一旦黙る)・・・手術してくれてる橋本先生

子 先生の名前は覚えてたの？

父 ・・・よくうちの店に来てくれるから。常連さんだし。

子 そうですか。(ダメだこの人という感じで腕を組む)

父 うん。ちょっと、思い出して。

子 ふーん。

父 いちごのショートケーキを好きな人は、

子 (かぶせるように)あのさ

父 (なんですか？という感じで子を見る)

子 ここはどこですか？(バカにした感じで)

父 病院。

子 手術中なのは誰ですか？

父 かあさん。(正解だろって感じで)

子 心配じゃないの？

父 心配だよ。(だから何？っていう感じ)

子 とてもそうは見えないけど？

父 そう・・・

子 母さんのことも僕のことでもどうでも良いつて思ってるんでしょ？だから、  
飴細工だ、いちごのショートケーキだって、自分の好きな仕事のことばかり。

父 そんなことないよ。

子 そんなことあるから、緊張感もなくそこにいるだけなんだよ。(だんだん怒って)  
おまけに、なんでそんな脈絡もない、わけわかんない話するんだよ！

父 ...

子 ホント最悪

父 ...

子 (腕を組んで座る)

父 ... (何か言いたいんだけど上手く言えない感じ)

子 ... (ちょっと言い過ぎたかなと思いつつ、腕を組み直す)

父 ... 母さんやアオイと違って、話すのは、苦手なんだ。

子 口下手だっていえば許されるとでも思ってるの？

父 ……そうじゃないけど

子 じゃあ、なあに？

父 そんなにポンポン言葉がでてこない

子 ふーん

父 うん

子 それで？

父 えっ？

子 えっ？じゃなくて、何が言いたいの？

父 ……心配してるよ。母さんもアオイのことも。

子 あっ、そう。

父 ……うん。……いちごのショートケーキなんだけどさ、

子 やっぱりわかってない。そんなに家の店のケーキのことが大事なら、  
ケーキと結婚すればよかったんじゃないの？

父 いや。そうじゃなくて。母さんも好きだったんだ、いちごのショートケーキ。

子 うん。知ってるけど。

父 うん。

子 というか、その好き「だった」って言うのやめてくれない？

父 うん。アオイも好きだろ？

子 ケーキなんて見たくない。

父 えっ？

子 家がケーキ屋のせいで、学校みんなには毎日ケーキが食べられていいとか、わけわからないと言われるし。ケーキ屋だったがために、クリスマスなんて今までちゃんと家族で祝った覚えなし。

父 ……すまない。

子 うちのケーキのせいで、振り回され続けてるんだよ。ケーキなんて好きなわけ無いでしょ？

父 父さんのことは嫌いになってもいい、でもケーキのことは、嫌いにならないで欲しい。

子 どういうこと？

父 母さんも店の常連さんだったんだ。

子 だから。

父 いつも父さんの作ったケーキを買って行ってきて

子 それで

父 母さんが父さんのことを好きかどうか、正直、わからない。

子 ……(可愛そうなものを見る目でみる)

父 でも、少なくともうちのケーキは美味しいって言って食べてくれた。

父 あれはウソじゃないと思う。

子 そう。

父 それに、アオイが小さい頃、ケーキ大好きって言ってたからな。

子 それは、小さい子どもだったらだいたいみんなケーキ好きなんじゃない？

父 実はアオイが生まれたあとすぐ、じいちゃんが死んで、  
3年くらい、店をつづけるかどうか迷った。

子 え？

父 父さん、しゃべるの苦手だし、一人でやっていく自信なかったんだ。

子 そう。

父 店の売上もあの頃はあんまりよくなかったし。  
いっそ、トラックの運転手にでもなろうかと迷ってた時期があったんだ。

子 ふーん。

父 でもな、アオイが3歳の誕生日に「いちごのショートケーキ、美味しいって」

子 そんなこと言ったっけ？

父 言ったさ。それで吹っ切れた。

子 そんなもんで？

父 ああ、自信がもてた。

子 そうですか。

父 あと、・・・

子 何？

父 あと、母さんには秘密にしろって言われたんだけど

子 何を秘密にしたかったの？

父 その、母さんがどこに出かけたかは知っていたんだ。

子 どこに行こうとしてたの？

父 アオイの誕生日プレゼントを買いにでたんだ。

子 えっ？

父 明日、誕生日だろ。

子 覚えてたの？

父 もちろん。忘れたことはないさ。

子 あっ、そう。

父 なんだよ。

子 店でケーキを買うお客さんの誕生日しか覚えてないんじゃないかって、思ってた。

父 アオイのは特別さ、今まで店を休みにしたのは、アオイの生まれた日と今日だけ。

子 そうなんだ。

父 父さんからは特製の誕生日ケーキを渡す予定だったんだが。

子 いちごのショートケーキ？

父 ああ、そうだよ。

子 そう。・・・父さんにいってなかったことがあるんだけどさ。

父 ・・・(みる)

子 来年の4月から、家、でるから。

父 母さんから聞いている。

子 母さんしゃべったの!?

父 ああ、製菓学校のパティシエコースに行くことも聞いている。

子 最悪だ。

父 店、継いでくれるのか?

子 しらない!

父 まあ、何でもいいさ。

子 なんでもよくない!

父 だから、ケーキだけは嫌いにならないでくれ。

子 わー。もう、母さん退院したら覚えてろよ。

父 お手柔らかにな。

子 ……母さんが退院したら、予定よりも早めに出てく。

父 まあ、そう言うなよ。

子 絶対!でてく。

父 そうか。

子 ランプ消えたよ。

父 手術、終わったな。(暗転)